

Nihon Univ. Equestrian

Vol.10 2010. Winter

Team



私が危惧する今

諸岡 慶

4年間という時間をどう過ごすのか。何故、学生生活を寮で行うのか、どうして心を磨き減らすような思いが必要なのかを今一度考える時期なのかもしれない。

今振り返ると、昨秋の全日本学生の負けはあってしかる

べきものだろう。チームの問題、個人の問題、ともに解決しきれないままの状態ではなかっただろうか。関東を勝ったという心の慢心ははっきりいって大きい。調子を万全に出来なかった人馬もいる。部内での競い合いやレギュラーと下付きの部員との相反するものが一体となることがチームとしての最後の作業ではあるが、そこまでたどりつけなかったのも事実だろう。結果として技術と勝利への執念は相手の方が上だったということしか今となっては残らない。

私自身も監督就任5年が経ち、少しずつ学生への接し方を意図して変えている。これは、今の学生の感受性の劣化に失望とは言わないが、寂しさを感じるものがあるからだ。携帯電話、ネットを見れば何でも必要とされる情報が手に入ってしまう。自分達で知恵を搾り出す前に、情報にごまかされてしまうのではないかと。私も何とかして欲しいと

いう愛情から、声を荒げて、ただ驚きふためくばかりで、中には現実から逃げようとする者もいる。これは私個人的な見解だが、今の親が怒らなすぎだというのも一つ要因だろうし、何より子供に対して親が怒った側の痛みからこっそりと逃げているのではないだろうか。だからこそ先を読んだ行動が出来ない、尋ねても気持ちのいい答えが返ってこない者が増えているのだ。困難を乗り越える強い実行力と感受性の向上を団体生活の中で強く求めていきたい。

今シーズンが始まる前に思うこと全部が解決されるとは思わないが、一つ一つの事柄に決着をつけ、小さな結果をだすことで少しずつ前に進みたい。それらの積み重ねが、大きな結果を生むのではないと思う。しいては勝つこと、二番、三番ではない。常に一番を求められる日大の伝統を守るのではないかと考えている。

全日本 学生レポート

全日本学生馬術三大大会

全日本学生賞典馬場馬術競技大会 2位 4年 伴 春臣(ブランシュデュポア)

最後の学生戦は4年間の全てをかけて望みました。この1年、主将を務めさせて頂き、3種目総合優勝を目指して頑張ってきました。

僕は馬場と総合に出場しました。馬場では3人が決勝に進み、個人では念願の表彰台へのぼる事が出来ました。総合では、1回反抗してしまい、それが1番の心残りです。

僕が叶えられなかった分、後輩にはぜひ関東・全日本と優勝してもらいたいと思います。



全日本学生賞典総合馬術競技大会 10位 4年 北村美緒(桜勝)

最後の全日本学生。泣いても笑っても最後。今までやってきたことを信じて、後は精いっぱい全日本学生を楽しもう。そう思って迎えた当日。心ではそう思っているが、身体が言うことを聞いてくれず…障害飛越・馬場馬術と緊張からミスが連発。お互いに戦っているメンバー達に沢山の迷惑をかけてしまいました。悔しさと申し訳なさで毎日涙を流しました。総合馬術・調教審査の朝、諸岡監督に呼ばれ、「きっと監督も失望しているに違いない」と思っていた私に監督がかけてくださった言葉は想像に反し、「俺は信じている。だから思いっきりやっつけてい」と暖かい言葉でした。その言葉で私は気持ちを切り替えることができ、調教審査では全日本学生で初めて満足のいく演技ができました。一番心配していた耐久審査も、障害減点0で終わることができました。全日本学生の一週間、失敗したことも含め、濃密で意味のある時間を過ごすことができたと思います。素晴らしいこの時間を過ごせたことは、諸岡監督、コーチのみなさん、馬付きをしてくれた後輩たち、サポートしてくれた同期や部員みんなのおかげです。この馬をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



全日本学生賞典馬場馬術競技大会 6位

2年 伊藤昌展(桜秋)

桜秋とは去年1年間コンビを組ませて頂きました。

コンビを組んで最初の競技ではあまり良い結果を出せませんでした。練習を重ね、関東学生では2位に入賞する事ができ上り調子で全日本を迎えたのですが、予選ではあまり思うような結果を出せませんでした。しかし10位以内に入れたので決勝のキューに進む事が出来ました。そこで一発逆転を狙ったのですが、思うような演技が出来ず6位という結果で終わってしまい悔しい思いをしました。でもここまで自分を連れてきてくれた桜秋には本当に感謝しています。これからも沢山活躍してほしいと願っています。そして今年こそは、去年の思いをすべてぶつけて優勝を狙い、団体も取りたいと思います!!

全日本学生賞典総合馬術競技大会 2位

2年 鳥谷部健太(イシュタール)

2年生になってコンビを組んだイシュタール。乗り始めの頃は人馬共に馬場が苦手でした。毎日乗ってもコツをつかめず馬が持っている全ての力を発揮させられないまま初めての関東学生。耐久でのタイム減点で順位が下がってしまいました。悔しかったけど逆にもう少し馬場を良くして耐久、余力を0にしたら上位を狙えるかもしれないという全日本学生への課題が見つかりました。夏の間にもう一度基本的な所からやり直そうと、調馬策から徹底してやり全日本学生へ望みました。2連覇がかかっている総合なのでチームの足を引っ張る事だけは絶対にしたくないと思い戦いました。馬場が終わり62%という思っていた以上の結果が出て、耐久、余力は何かなんでも0でくるという気持ちで走りました。結果は両方減点0で個人2位。団体優勝出来なくて悔しかったけど、何よりもチームに貢献出来た事が一番嬉しかったです。ありがとうイシュタール。





敗軍の将達よ 矜持をもて。 16年ぶりの3種目総合優勝へ



2009年6月の関東学生三大会で本学は18連覇中の強豪・明大を抑え、18年ぶりに3種目総合優勝を果たした。総合馬術で個人優勝した伊藤昌展(生物資源科2=茨城・若狭学園高)も「総合優勝に貢献できたことが何よりうれしい」と振り返った。10、11月の全日本学生三大会への期待も高まった。

全日本学生三大会初日の障害飛越第1回目走行には北村美緒(同4=埼玉・所沢高)、飯間彩花(同2=香川・農経高)、伊藤、上原佑紀(同=土浦日大高)、鳥谷部健太(同=青森・三本木農高)が出演。各選手の減点は鳥谷部が0、上原が4、伊藤が8、飯間が20。北村は2回の反抗で失権。2日目は、初日減点0だった鳥谷部が障害を一つ落とし9位。鳥谷部は「初日が良かったので慎重になった」とコメントした。

3日目の馬場馬術は4人が出演。伴春臣・前主将(法4=福島・岩瀬農高)と伊藤、上原が決勝に進出した。北村は20位。伴は「自由演技」で64・6点をたたき出し、諸岡慶監督も「優勝できる」と期待したが、直後に明大の柘植和也(4)が66・85点で首位に。伴は2・25点差の準優勝。伴は「勝てたと思った。うれしい気持ちと悔しい気持ち半々」と語った。伊藤は6位、上原はモイヤン号が暴れて7位。団体は2位だった。

大会最終日は総合馬術の耐久審査と余力審査。耐久審査で上原と鳥谷部はタイム、障害とも減点0。伊藤は走行中に桜彦号が鼻出血し棄権。不可抗力とはいえ、伊藤は悔しくてならなかった。余力審査は鳥谷部がノミスでゴールし2位。鳥谷部は「初めて出た全日本学生三大会で2位。うれしい」と笑顔を見せた。障害を一つ落とし3位となった上原は「詰めが甘かった。悔しい」。北村は10位、伴は19位。北村は「障害と馬場で悔しい思いをただけに、総合で入賞できよかった」。結局本学は、総合馬術団体、3種目団体総合とも2位。伴は「3種目総合優勝を逃したのが残念。次に期待したい」と後輩たちの活躍に期待した。諸岡監督は「練習通りの走行をしていれば優勝もあった。選手の緊張が馬にも伝わったか」と総括した。

学生馬術の最高峰である全日本学生三大会で、本学は1993年以来3種目総合優勝から遠ざかっている。新主将となった三輪裕一郎(生物資源科3=福島・日大東北高)は「全日本学生三大会で優勝できるよう部をまとめたい。まずは6月の関東三大会。連覇は意識せず挑戦者として臨む」と宣言した。

日本大学新聞社 吉田 薫=文・写真



主将のあいさつ

三輪 裕一郎

今年度、主将を務めさせていただきます三輪裕一郎です。
 伝統ある日本大学の主将を務めさせて頂く事を誇りに思います。
 昨年は関東学生三種目を18年ぶりに取ることができましたが、残念ながら
 全日本学生では三種目を取ることが出来ませんでした。今まで3年間育てて



下さった諸岡監督やコーチの皆様、また応援して
 下さっている方々のためにも関東学生では連覇
 を達成し、全日本学生では17年勝つ事が出来て
 いない3種目総合を勝ち取り名門復活という歴史
 ある年にする為にも部員一丸となって努力して
 いきますので、応援の程宜しくお願い致します。

女子主将のあいさつ

諸岡 愛

今年度女子主将を
 つとめさせて頂き
 ます、諸岡愛です。
 まさか私が女子主
 将に選ばれるなど
 考えてもいなかった
 ので正直戸惑っています。ですが今年度の主将
 を支えていき、部が一つでも多く学生戦で勝て
 る様に努力していきたいと思います。今年は
 「女子力」です。「女無くして男勝てず」です(笑)



六会のオシャレさん達

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

六会では日々流行の最先端をいっています

まずは靴下!

特に女の子達はこだわっているようです。ポイントは暖かくてかわいいのがいいみたいです。

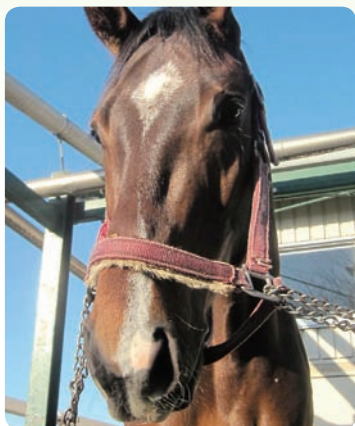


次は冬グッズ!

手袋や耳あてはさまざまな色や形をしていますね。ニット帽は載せきれないくらいたくさんあってそしてとっても派手です。

フリーウェイ

去年の冬、岩手県の遠野から、また「と」の烙印の馬がやってきました。それがフリーウェイです。みんなからは「うえいピー」と呼ばれています。フリーデンスラートの子供で、体高が大きく、他の馬とは違いみるみるうちに大きくなっていきました。体は六会で1、2位を争うほど大きいのに精神年齢はちっちゃな子供のままです。自分の体が大きいこと



文章:3年 高橋 花

に本人は気付いていないようで、甘噛みのつもりでも力が強く、手加減を知りません。暴れてとっても力の強いうえいは、部員のみんなから恐れられていてよく「やだ〜」とされています。そして昨年12月に競技デビューをはたしました。今は馬事公苑の競技に出るためにアシスタントコーチの友友さんと一生懸命練習中です!!!

桜陣

去年の8月にオーストラリアからやって来ました。最初はオーストラリアの広い所と違って住宅街の中にある六会の環境に驚いていて、人懐っこく無かったのですが、今では名前を呼んだら反応するようになりました。そんな桜陣は、みんなから「ごんたん」と呼ばれています。それはある日、洗い場に



いた桜陣をみたYさんが「なんかこの馬“ごん”って感じじゃない?」と言った事から呼ばれ始めました。ごんたんは容姿に似合わず130cmを軽々と通過します。落としがちなごんたんですが、今年はやります!!!

文章:2年 伊藤昌展

2010年の目標!



全日本学生三種目団体優勝!
3年 三輪 裕一郎



OneForAll, AllForOne
3年 足立 亮



うれし涙を流す☆
3年 高橋 花



完全燃焼!! 部に貢献する!!
3年 黒澤 みなみ



1日1日を大切に。1試合1試合勝負をかける。
3年 諸岡 愛



楽しむ
3年 高橋 芽生



最後の年なので、今までで最高の年にする!
3年 高橋 愛美



百戦錬磨
2年 伊藤 昌展



初心に還る
2年 上原 佑紀



分厚い壁をぶち抜く!!
2年 鳥谷部 健太



常勝日大!!
2年 小野 敬司



背水の陣
2年 梅田 敬仁



毎走満点!! 日々努力を続ける
2年 飯間 彩花



部内でも試合でも勝つ!! とにかく勝つ!!!
2年 梶塚 春華



射矢為虎
2年 天谷 幸枝



日々成長! Stack!
2年 永井 めぐみ



チャッピーを乗りこなす
2年 原元 千明



一心不乱!!
1年 真島 二也



無我夢中!!
1年 高樽 優也



先輩達に勝つ、と、ダイエット
1年 武内 優弥



全日本学生馬場団体優勝
1年 川崎 長門



全戦全勝!!
1年 野村 彬仁



食べ過ぎない事
1年 小松 愛子

平成22年前期行事予定

2月

9日
六会ホースショー
(日本大学馬術部)
13日~14日
2月ホーストライアル
(JRA馬事公苑)
20日~21日
スクーリングジャンプ
(JRA馬事公苑)
27日~28日
関東学生新人戦・OB戦
(JRA馬事公苑)

3月

6日~7日
スクーリングドレサージュ
(JRA馬事公苑)
13日~14日
三獣医馬術大会
(東京競馬場)
17日~18日
3月ホーストライアル
(JRA馬事公苑)
20日~21日
東京馬術選手権大会
(JRA馬事公苑)
22日
歓送迎会
(グランドプリンス高輪)
25日
卒業式
(日本武道館)
26日~28日
日立明馬術競技大会
(JRA馬事公苑)

4月

8日
入学式
(日本武道館)
9日~11日
東都学生馬術競技大会
(JRA馬事公苑)
21~22日
4月ホーストライアル
(JRA馬事公苑)

5月

3日~5日
JRAホースショー
(JRA馬事公苑)
15日~16日
JRA馬場馬術競技大会
(JRA馬事公苑)
22日~23日
都民体育大会
(JRA馬事公苑)
28日~30日
全日本総合馬術大会パートI
(JRA馬事公苑)

6月

12日~13日
関東学生馬術争覇戦
(JRA馬事公苑)
24日~27日
関東学生馬術三大大会
(JRA馬事公苑)

合宿所・馬場

〒252-0813
神奈川県藤沢市亀井野840
tel: 0466-81-0288
fax: 0466-81-8885
e-mail: nuet@msj.biglobe.ne.jp
HomePage: <http://www.nu-equestrian.com>

皆様応援よろしく申し上げます。

日大馬術部 ブログ 「むっちゃん」をご存じですか?

大人気「むっちゃん」は日々更新中。六会の楽しい出来事がわかりますよ。ぜひご覧になって下さい!

動画配信はじめました!!

(編集担当) 高橋 花、梶塚 春華

